

## 教えてください、あななのことを。⑥

神奈川県小田原市 小泉啓子さん

第6回は小田原市在住の小泉さん。ごみかんが発行する講演録や記録集などを、いつもまっ先に申し込んでくださって、制作担当者の大きな励みになっています。「ご自身の紹介」「ごみ問題に関わったきっかけ」「ごみかんに期待すること」など、いつもの5つの質問にまとめてお答えいただきました。

5歳まで尾道、その後東京・浦和・名古屋・小田原と移り、約20年間小田原にいます。現在63歳で、結婚してからごみのこと、特にリサイクルについて興味を持ちました。

大磯の田端さんから「ごみ・環境ビジョン21」を教えていただきました。読んだもので残しておきたいと思うものは少ないですが、「ごみっと・SUN」には、長くとおきたいと思う記事ばかりが載っていたのですぐに会員になりました。

中学生の頃から政治に興味を持っていましたが、小田原で市長に立候補した人の応援をし、その人が生ごみのたい肥化を提案していて、当選されてから検討委員会を立ち上げられたので、そこに入りました。

みんなで「小田原にふさわしいたい肥化」を検討したのですが、まずはダンボールコンポストに取り組んでみようということになりました。

「生ごみたい肥化プロジェクト」と銘打って、毎月、情報交換の場としてサロンを開いているのですが、毎回40人～80人も来てくださり、熱気あふれる場になっています。(写真) 皆さん実に色々な工夫をされていて、よりやりやすいコンポスターが次々に出来てきました。例えば雨がどんなにあたって中も濡れない「穴あきコンポスター」(写真参照)など。

サロンに来られない人のために、サロンで提案された工夫などをのせた通信も毎月発行し、この通信は小田原市全部の郵便局と信用金庫などに置いてもらっています。

このプロジェクトは市民と行政の協働で行われていて、毎週月曜日の10時～12時まで事務局会議を開き、色々なことを決めています。この事務局会議が市民と行政の協働の中身のあるものになっていると思います。

今まで2年間で2000個の段ボールコンポストを無料配布し、年に3回基材の無料配布(地域連絡所29か所)も行っています。アンケートも毎年実施し、継続率は約30%です。いかに継続率を高めるかが大事なので、サポーターを募集し(現在123人)、より多くの人に広げてもらっています。

ごみかんに期待したいことは、生ごみ堆肥化・減量化の全国の色々な事例について、費用対効果の視点も加えて載せてほしいなと思っています。

発泡スチロール箱の横に、下から上に斜めに穴を開け、底にも穴が開いています。外側を100円ショップで売っている防草シートでおおって、虫の侵入を防いでいます。フタには穴が開いていないので、雨が入りません。



つなげるつなげる会員さん

